

- 第十五、宮崎 第十六、延岡
 - 第十七、大分 第十八、中津
 - 第十九、田川 第二十、遠賀
 - 第二十一、嘉穂 第二十二、三井
 - 第二十三、粕屋 第二十四、浮羽
 - 第二十五、都城 第二十六、別府
 - 第二十七、若松 第二十八、鳥栖
- 6、宣言朗讀（別紙印刷物参照）
- 7、役員發表
- 8、祝辭朗讀
- 9、各軍團の祝辭

八幡 上田 文吉

理屈の時代は過ぎた、政治は腐敗墮落してゐる、此儘で

は國民は餓死の外ない、生活擁護の爲國論を統一せよ、
 社會主義的イデオロギーに依つては統一出来ぬ、建國の
 精神に基く行動に依つて凡ゆる勢力を驅逐せよ、五、一
 五事件の行爲の善悪は豈も角其の志は國民の救済するこ
 ころである、昭和維新断行の爲め起て。

八幡 小園 利夫

肅然とした国歌合唱の氣持こそ我が大日本護國軍の精神
 である、血を見ずして國家の改造は出来ぬ。

佐賀 日高 某

一九三六年には生界各國が日本を目ざして押し寄せて來
 る、國民は大團結して錦の御旗を押し立て、邁進せよ

九州本部 富田 麟

革命のノロシは五、一五事件を以て打ち上げられた、五、